

寄せ蛾記

埼玉蛾類談話会 発行(連絡会報)

YOSEGAKI; THE SAITAMA HETEROCERISTS GROUP

埼玉県産蛾類分布資料 2)

三峰山のスズメガ科

並木彬雄

1964年の4月から11月までの間に、7回にわたって三峰山(埼玉県秩父郡大滝村三峰ケーブル山頂駅、標高約1,000M)での夜間採集を行い多数の蛾を採集したが、その内のスズメガ科について報告することにした。採集できたものは、さきに報告したコウチスズメを含めて10種であり、学名は原色蛾類図鑑(1958)によった。

1. *Oxyamblyx ochracea* BUTLER ホソバスズメ
1 ex. 10. V. 1964
2. *O. japonica* ROTHSCHILD フトオビホソバスズメ
4 ex. 10. V. 1964, 1 ex. 5. VII. 1964
2 ex. 12. V. 1963
3. *O. schauffelbergerii* BREM. et GREY モソバスズメ
1 ex. 5. VII. 1964
4. *Herse convolvuli* L. エビガラスズメ
1 ex. 6. IX. 1964, 1 ex. 4. XI. 1964
5. *Kentrochrysalis consimilis* R. et J. クロテンケンモンズズメ
1 ex. 6. IX. 1964
6. *Marumba gaschkewitchii echephron* BOISD. モモスズメ
1 ex. 7. VI. 1964
7. *Acosmeryx naga* MOORE ハネナガブドウズズメ
2 ex. 10. V. 1964, 1 ex. 7. VI. 1964
1 ex. 5. VII. 1964
8. *Smerinthus tokyonis* MATSUMURA コウチスズメ
1 ex. 10. V. 1964, 1 ex. 5. VII. 1964

9. *Theretra japonica* de l'ORZA コスズメ
1 ex. 6. IX. 1964
10. *Deilephila elenor lewisii* BUTLER バニスズメ
1 ex. 5. VII. 1964

アセチレン燈 点火の記〔2〕

— 谷川岳 湯檢曾川 — 原 聖 樹

8月26日(1963年)

ガレ沢の出合から仰ぐ「サンザ沢」の上部がことのほか印象的で、岩峰が紺碧の空に冴え、後縁にはすでに秋風が吹いていた。黄ばんだ秋の陽射しを受けて花の上を舞うベニヒカゲの姿は、周囲のアルペン的な景観に溶け合って、一種の愁いがある。

谷川岳のベニヒカゲは、西黒沢とガレ沢との分岐点付近から姿をあらわし、標高が上がるにつれてその個体数を増す。8月の下旬ともなると発生末期にあたるので、色あせた個体が大部分で、新鮮なものは数えるほどの量しか見あたらない。西黒尾根ではラクダの背付近が、棲息の下限のように思う。このほか標雪小屋から上部の尾根すじには、キベリタテハが多く出没し、キアゲハ・ミヤマカラスアゲハ・アサギマダラなどが風に乗って飛来する。

西黒沢では、ベニシタバ・シモフリエダシク・ヒョウモンエダシク・アゲハモドキ・キンモンガなどの飛翔を確認し、種名は定かではないが、この沢すじにはシクが類が非常に多い。

さて、東黒沢出合付近の湯檢曾河原に天幕を張り、当会の田村・高木の両

氏から借用したアセチレン灯に点火したのは午後7時ごろ。その後約2時間ほど待機してみたが、この間にヤガの類が数匹飛来したのみであった。この付近は土合駅をはじめとし、土合山の家・住友銀行ヒュッテ・千代田銀行ヒュッテ・ロープウェイ駅など、周囲を立派な光源に恵まれているので、たぶんその方に誘導されてしまったのであろう。この度は、学友3名とハイキングのつもりでやって来たついでの夜間採集なので、それを歩いて確認する気持の余裕を持てなかったことを反省している。また、この時の採集品は、高木部氏が保存されている。

8月27日

旧道沿いに蓬峠を越え土樽に向う。昼間飛翔する蛾を採集する余裕なく、大きなキスリングを背にもっはら歩くのみであった。マチガ沢および、倉沢出合ではツマジロウラジャノメを、一ノ倉沢～芝倉沢間ではオオミドリシジミの各♀とミスイロオナガシジミ、それにシータテハなどの飛翔を見る。武能沢にはアサギマダラが舞い、白樺沢源頭から蓬峠にかけては、ヒメシジミとベニヒカゲとが比較的多かった。

(埼玉県産蛾類分布資料 3)

埼玉県地方のシヤチホコガ科の

追加記録 ——— 市川和夫

埼玉県産のシヤチホコガ科については、矢野重明(1958¹⁾, 1961²⁾)と筆者(1962³⁾)とが報告してきたが、両者の記録をまとめてみると、ヒメシヤチホコ亜科が3種、モンシヤチホコ亜科が67種となり、既知種の合計が70種ということになる。

[追加記録種]

その後1963年と1965年とに宝登山で、また以前に秩父地方で採集したもののうち、次の8種が含まれていたもので、それらを前の記録に追加することにした。これで埼玉県に分布するシヤチホコガ科の蛾は78種になる。

1. *Cerura erminea menciana* MOORE オオモクメシヤチホコ
1♂ 宝登山 27. VI. 1965
2. *Desmeocraera viridipicta kimiko* NAKAMURA オオアオシヤチホコ
1♂ 宝登山 27. VI. 1965
1♂ 上中尾 17. VIII. 1961
3. *D. pryeri* LEECH プライマアオシヤチホコ
6♀♀ 宝登山 27. VII. 1963
2♂♂, 1♀ 宝登山 27. VI. 1965
4. *D. punctatella* MOTSCHLSKI ブナアオシヤチホコ
2♂♂ 宝登山 27. VI. 1965
5. *Peridea basilinea* WILEMAN ネスジシヤチホコ
7♂♂ 宝登山 27. VI. 1965
6. *P. graeseri* STAUDINGER イシダシヤチホコ
10♂♂ 宝登山 27. VIII. 1963
7. *Odontosia sieversii japonica* MATSUMURA シーヴェルシヤチホコ
1♂ 白岩山 15. V. 1961
8. *Mesophalera sigmata* BUTLER クロシタシヤチホコ
2♀♀ 宝登山 27. VIII. 1963

以上のほかキテンシヤチホコが奥秩父の国師岳(山梨・長野の県境)で発見されているが、正確には県外の記録

なので78種の中に含めていない。また並木彬雄氏は、たしか三峰でマエジロシヤチホコを採集しているが、これも

1) 神流川流域の蛾類 採れた会々報 No.1

2) 浦和市及びその近郊産蛾類資料 Arginnis Vol.10, No.2

3) 埼玉県地方の蛾類に関する研究 秩父自然科学博物館研究報告 11号

正確な報告をまつてからにする。

〔未記録種について〕

原色昆虫大図鑑(1959)にあるシヤチホコがのうちで、埼玉県未記録と思われるのは次の26種も挙げられるので、該当種についての埼玉県内の記録、あるいは採集した標本をお持ちの方は御教示下さい。

1. ユミモンシヤチホコ(北本四九)
2. シロテンシヤチホコ(北本四九)
3. ウスグロシヤチホコ(北本四九)
4. トビギンボシシヤチホコ(同上)
5. マエジロシヤチホコ(北本四)
6. エゾクシヒゲシヤチホコ(北本四)
7. ニセツマアカシヤチホコ(北本四)
8. ヒナシヤチホコ(北本四)
9. オオナカグロモクメ(北本)
10. トビマダラシヤチホコ(北本)
11. クワマエグリシヤチホコ(北本)
12. シロジマシヤチホコ(北本)
13. スジモクメシヤチホコ(北本)
14. チョウセンエグリシヤチホコ(同上)
15. アマギシヤチホコ(本)
16. キテンシヤチホコ(本)
17. コフタオビシヤチホコ(本)
18. ナチアオシヤチホコ(本)
19. タカムクシヤチホコ(本四九)
20. ノヒラトビモンシヤチホコ(本四九)
21. トリゲキシヤチホコ(本四九)
22. ホソバナグロシヤチホコ(本四九)
23. ハネブサシヤチホコ(本四九)
24. タツタカモクメシヤチホコ(同上)
25. ヘリスジシヤチホコ(本四九)
26. カバイロシヤチホコ(本九)

☆ ☆ ☆ ☆

おねがい

当会では本年度中に(1)シヤチホコガ科、(2)スズメガ科 それに加えてヤママユガ科の記録を整理することを活動計画の一つにしています。そこで左記シヤチホコガ科の未記録種に加えて、下記のスズメガ科およびヤママユガ科について、埼玉県内の採集記録、または標本をお持ちの方は是非お教し下さい。

〔スズメガ科〕

1. クロメンガタスズメ(九)
2. コエビガラスズメ(北本四九)
3. マツクロスズメ(北本)
4. ヒメクチバスズメ(記録あり)
5. オオシモフリスズメ(本四九)
6. ヒメウチスズメ(北本)
7. ノコギリスズメ(北本)
8. リュウキュウオオスカシバ(四九)
9. フリッツェホウジヤク(四九)
10. イブキスズメ(本九)
11. ヒメスズメ(北本九)
12. イッポンセスジスズメ(本九)
13. サツマスズメ(九)
14. シタバニスズメ(奄美島、沖縄諸島)

ヒメサザナミスズメ(埼玉未記録)
は室登山に多く、三峰にも産する。

〔ヤママユガ科〕

1. フロウスタビカ(北本)
2. エゾヨツメ(本四九; 浦和・川口で採集されているが未記録)
3. オナガミスズアオ(本、本年浦和で採集したが未記録)
4. シンジュサン(北本四九、室登山で採集しているが未記録)

ⓧ

紹介

田村公憲, 松本孝芳, 高木郁夫: 「房総半島清澄山の蛾類」 Batatas 増刊号, 浦和高校生物部OB会発行, (1965), 88pp.

この報文については, さきに杉繁郎氏により蛾類通信 No. 39, p. 349 の紙上に紹介されており, 重複することになるが, 発表者が3名とも本会の会員であり, 珍種がとれたとき, 採集品が少ないときなど, そのたびに全会員で一喜一憂してきたので, あえて再び紹介し, その業績を讃えることにした。

田村氏らは, (1) 伊豆半島の蛾は天城山を中心として比較的よく調査されているのに, 房総南部のものは未知の状態であること, (2) 紀伊・伊豆の両半島で既知種である南方系あるいは暖地性のものが, 房総南部にはどの程度分布しているか。などの点をあきらかにすべく, 1961年7月と, 1963~1964年に各8回(3月~11月)もはるばる清澄山まで足を伸ばし, 約730種を採集して, その記録をするとともに, 多少の考察をも加えている。経費の都合で自筆のかり刷りではあるが, 精細なデータが全種に記録してあるし, 分布上興味のある種を多数含むので, 貴重な資料といえる。この報告は蛾類学会の代理部で取扱ってくれているが, 若し品切れの場合は発表者または当会に紹介されたい。

なお杉氏の紹介文中, 「浦高生物部OB会とは, この目録の著者ら3人の会のことで」とあるのはまちがいで, 浦高生物部卒業生の有志約20名の会員をようして活躍している会である。(市川和夫)

中村正直: 「ヤクシマネグロシヤチホコの2頭目の発見」 蛾類通信 No. 39, p. 351, (1965)

当会の鳥淵顕雄氏が, 屋久島で採集したシヤチホコガ3種を報告している。

◇ ◇ ◇

並木彬雄: 「岩手県岩泉町付近の蛾類」 蛾類通信 No. 39, pp. 352~353, (1965)

通信 No. 39 は当会々員関係の記事が3つもある。この報文も同様で, 氏が1963年7月に採集した蛾17科122種の目録である。

◇ ◇ ◇

斉藤良夫, 市川和夫: 「飯豊地方の甲虫と蛾」 PURPURA No. 3, pp. 65~70, 浦和市長立高校生物研究会発行, (1965)

1963年8月に盤梯朝日国立公園の飯豊連峰で採集した昆虫類のうち, 斉藤氏が甲虫類(主としてガミキリムシ科)を28種, 市川が飯豊温泉と大日杉小屋付近の蛾を54種記録している。かり刷りで, 他に埼玉県のラン科植物などの記事がある。無料配布。希望者は市川宛(本紙8頁参照)申込むこと。

◇ ◇ ◇

原聖樹: 「奥秩父の蝶類」 Batatas 臨時増刊号, 33pp. (1964)

副題は, 「分布調査の対象になるよう

な種類について」なので、いわゆる単なる蝶の目録ではない。御存知のように氏は以前から蝶の分布・生態について永年にわたって研究し、今では県内で氏の右に出る人はない。この論文は豊富な資料と経験とを基に、主として

埼玉県西部山地の(1)分布的に留意すべき種 (2)疑向種・土着疑向種, (3)未記録種 などについて精細に論じている。県内はもちろん、日本中部の蝶の分布を調べている人にとって貴重な資料といえる。ガリ刷り, (4頁の分布図を含む)